



京都教区の初代教区長をご存じでしょうか。現在の大家喜直司教は第4代。歴史をさかのぼると、第3代は田中健一司教、第2代は古屋義之司教、そして初代が、メリノール宣教会のパトリック・バイン司教です。



1937(昭和12)年、大阪教区の一部だった京都、滋賀、奈良、三重は京都知牧区として設立されました。

そして、バイン神父(この時は司教区ではなかった)ので、神父のまま)が教区長となられ、1941(昭和16)年までの4年間、務められました。

京都南部地区洛北ブロックにある高野教会では、毎年、バイン司教の命日(11月25日)に近い主日ミサの中で、バイン司教のために追悼の意向でミサを捧げてくださいました。2020年は、帰天からちょうど70年。しかしコロナ禍のため、追悼ミサの計画もなくなっていました。そんな時、東京のマリア会の司祭、終暁生(ひらぎあけお)神父から、命日当日、高野教会でバイン司教のために、ミサを立てさせてほしいという依頼が入りました。

高野教会は古い聖堂のため、換気が難しく、10月のミサ再開後は、窓が全開できるホールにてミサが行われていました。しかし、高野教会に居住しておられる花井神父のご厚意により、当日は聖堂にミサの準備が整えられ、終神父は、祭壇に置かれたバイン司教の遺影に見守られながら、帰天70年の追悼ミサを捧げられました。会衆は、高野教会の役員、広報部員、そして教区時報の編集者の3名。ミサ後、終神父にお話を伺いました。



高野教会でミサを捧げる終神父

終神父は終戦直後の1945年8月のお生まれ。信仰熱心なご両親に連れられ、生後2か月の時に高野教会にて、バイン司教(当時神父)より洗礼を受けられました。終神父が、高野教会の洗礼台帳を見せてほしいと言われたので、事務担当者を探してもらおうと、「高野教会洗礼台帳11番」に、バイン司教直筆の終神父の記録が見つかりました。終神父は幼かったので、バイン司教のことは覚えておられないようですが、お父様がバイン司教をととても尊敬されていたとのこと、

バイン司教に出会えたようだ、とても喜ばれました。

5年後、バイン司教の帰天75年祭には、再び高野教会で追悼ミサを捧げていただく約束をして、終神父とお別れしました。

バイン司教様、パンデミックのさなかにある私たちのために祈りください。

広報委員 原山裕子

―パトリック・バイン司教 略歴―

1880年10月	ワシントンにて誕生
1915年6月	ワシントンにおいて司祭叙階
1923年春	ニューヨークのメリノール宣教会に入会
1927年	教皇ピオ11世に謁見後、韓国調査旅行
1929年春	ピョンヤン教区長メリノール宣教会総長補佐
1935年3月	来日、滋賀県にて宣教活動
1937年6月	京都教区初代教区長
1940年11月	京都教区長を古屋義之神父に委任
1941年12月	開戦から終戦まで
1945年8月	高野教会に軟禁
1947年	韓国駐在
1949年4月	韓国教皇使節任命
1949年6月	司教叙階
1950年7月	北朝鮮軍捕虜
1950年11月25日	下昌里郊外にて帰天